

【教育目標 夢中になる とともに創る】



きらきら



新潟市立沼垂幼稚園
園だより
令和8年5月25日発行

沼垂幼稚園112年目 大切にする2つの「一」と、1つの「二」 ★一人一人 ★一緒 ★無二

幸福感（ウェルビーイング）は、伝わったり広がったりする

園長 関根 秀也

風薫る新緑の清々しい日の年少組の様子です。年少組の子どもは、テラスや廊下に出て、それぞれでやりたいことをして楽しんでいました。テラスでは、Aさんが、空き箱に円形の色画用紙と青色と赤色の小さい四角形の色画用紙をテープで張り付けて、立派なタイヤと輝くサイレンが付いたパトカーに見立てて、「パトカーです。パトカーです。走ります。」と言って、テラスを走ってパトロールしています。BさんとCさんは、紙棒の先に細長い紙テープを付けて、春風になびく紙テープの様子をニコニコしながら一緒に見えています。Dさんは、登園後に何か嫌なことがあったのか？思い通りにいかないことがあったのか？ご機嫌斜めで少し涙ぐんでいます。Eさんは、飼育物を湿らせるときに使う霧吹き用の空き容器を持ってきて、水は入っていないのですが「シュッ、シュッ、シュッ。」と言って、ミストのイメージなのか？霧吹きのハンドルを繰り返し握っています。廊下では、Fさんが、廊下の窓から外の様子をじっくり眺めています。それぞれ違うことをしているのですが、場や時間を共有しています。Eさんの“エアミスト”効果が表れてきて、Dさんの涙も止まってきました。すると、パトカーを走らせていたAさんがEさんの“エアミスト”のところで立ち止まり、“エアミスト”を浴びながら「ぼくもやりたい」と言いました。Eさんの霧吹きのハンドルを握る手が止まり表情が曇りました。しばらくAさんとEさんの間で沈黙が続きました。その様子を見ていた担任が、「Aさんも、シュッ、シュッ、したいんだね。」「先生もしたいな。」「Eさん、Aさんも先生もやりたいから、終わったら貸してくれるかな。」とEさんに話しかけました。Eさんは「…いいよ、終わったらね。」と答えました。担任は「うれしい！ありがとう！じゃあ、待っているね。」と明るい声と笑顔でEさんをはじめ、テラスや廊下にいる全員に聞こえるように言いました。さらに担任は「Aさん、少し待ってようね。」とAさんに話しかけました。それを聞いたAさんはうなずいて、パトロールを再開しました。Eさんは、担任の言葉を聞いたりAさんの様子を見たりして、どこか誇らしげでした。（このような場面は、幼児期によく見られる姿で、相手に自分の思いを伝えたり、相手の思いを知ったりすることの大



切さに気付く貴重な経験として、幼稚園で大切にしていきたい集団生活の中の学びの一つです。) このころになると、Dさんも“エアミスト”の効果や担任の明るい声、Eさんの優しい姿に涙もすっかり止まり、新たな遊びに取り組もうとしていました。BさんとCさんは、より風を感じることができる場所を探索していました。Fさんは、駐車している車や玄関を出入りする人の様子を見て、「〇〇が通った」「◆◆だ」と気付いたことを伝えています。

先日、小中高等学校・中等教育学校の教職員が集まる研修会に参加した際、ウェルビーイングの研究を推進している<武蔵野大学准教授 浦谷 裕樹 氏>の講演を聴きました。その中で、データに基づき「幸せ（ウェルビーイング）は伝染する」「自分が幸せなら周りも幸せ」ということについての話がありました。幸福感は、周囲に伝わったり広がったりするということなのです。心も体も元気、笑顔がいっぱい、自分らしくいられる、友達といると楽しい…プラスのエネルギーは、周囲に循環することが分かりました。

前述の子どもたちの姿は、幸福感が伝わったり、広がったりした様子と捉えることができるのではないかと考えます。友達の言動、教師の援助によって安心して過ごすことができると「もっとやってみよう」「次はこうしようかな」「今度はこう話そう」という次の遊び（学び）への活力になり、さらに幸せな時間につながります。このような好循環が生まれることが沼垂幼稚園の大事にしている教育環境です。今後も子どもたちが幸福感を抱き、その幸福感が伝わったり、広がったりする環境を整えられるように努めていきます。

今月の「きらきらな笑顔」



玄関駅に到着です



こんにちは～であくしゅ！



こいのぼりさん、待って～



サッカー教室のコーチと一緒に
「コアラのマ～チ♪」